

11月、12月は
Hand in Hand
募金キャンペーン
期間

ユニセフ第44回 ハンド・イン・ハンド

2022年のテーマ **最も厳しい状況にある子どもたちの願いをかなえよう**
～生きたい! 食べたい! 学びたい!～



© UNICEF/UN0635215/Mulaiai

今、世界では紛争、自然災害、貧困、コロナウイルスなどの影響で厳しい状況に置かれた子どもたちがたくさんいます。ユニセフとともに、最も厳しい状況にある子どもたちの～生きたい! 食べたい! 学びたい!～という切実な願いをかなえるため、ハンド・イン・ハンド募金へのご協力、ご参加をお願いします。

ハンド・イン・ハンド街頭募金活動

- 花巻 12月10日(土)
 - ・アルテマルカン・コープ花巻あうる
 - ・イトーヨーカ堂花巻店・ピフレ花巻店
- 盛岡 12月11日(日)
 - ・カワトク・アネックスカワトク
 - ・クロステラス・mossビル
- 宮古 12月実施予定

昨年・一昨年はコロナの影響で、募金活動は中止しましたが、今年は感染対策をとった上で街頭募金を実施いたします。

具体的な参加方法は [こちらから](#) >>>



www.unicef.or.jp/hand/

お問い合わせは >>> 岩手県ユニセフ協会 まで

使用済みの郵便切手を集めて、ユニセフ募金にしています。

岩手県ユニセフ協会では、使用済みの郵便切手を集めて、ユニセフ募金にしています。使用済みの切手は、切手の周囲5mmを残すように切り取ってから協力企業に送り、募金となります。その切り取り作業に協力して下さっている方々を紹介します!



▲切手の美しさに触れたり、好きな切手を見せ合ったり、と楽しみながら作業をしている生徒さん。

～盛岡峰南高等支援学校流通・サービス科の生徒さん～

このほかにいわて生協一関コープのくらぶ、「ふれあいサロン応援隊」のみなさんも切手の切り取り作業に協力して下さっています。

ご家庭やオフィスに郵便切手が貼られている封書やはがきがありましたら、岩手県ユニセフ協会までご連絡ください。世界の子どものための支援になります。

賛助会員募集

年1回、会費をいただき、岩手県ユニセフ協会の活動を継続して支えていただく賛助会員制度です。会員のみならずには、ニュースやイベント案内をお届けしています。

一般会員 (個人ならどなたでも) 1口 / 5,000円

学生会員 (18才以上の学生) 1口 / 2,000円

団体会員 (団体・法人・企業) 1口 / 100,000円

集めています!

- ・使用済み切手
- ・書き損じはがき
- ・外国コイン

これらも募金になります



※お持ちの方は、ご連絡ください。

ボランティア募集



- ユニセフでは…
- ・募金活動
 - ・学校などへの出前講座
 - ・学習会・パネル展示



などをボランティアのみなさんで行っています。あなたもぜひ参加してみませんか?

お申し込み・お問い合わせは、岩手県ユニセフ協会まで

TEL 019-687-4460 FAX 019-687-4491
E-mail sn.iunicef_iwate@todock.coop

岩手県ユニセフ協会ニュース No.56



Iwate Association for UNICEF

2022年11月

【発行】

岩手県ユニセフ協会

〒020-0690
岩手県滝沢市土沢220-3 いわて生協本部2F
TEL 019-687-4460 FAX 019-687-4491
e-mail : sn.iunicef_iwate@todock.coop
ホームページ <http://www.unicef-iwate.jp/>

ウクライナ緊急募金 自然災害緊急募金 アフリカ栄養危機

避難を余儀なくされ、教育の機会を奪われ、恐怖におびえ心身ともに影響を受けている子どもたち、地震津波、洪水など災害下の子どもたち、深刻な栄養不良と水に起因する感染症のリスクが重なる子どもたちに、支援を届けるため、ご協力をお願いします。

ウクライナ緊急募金



500万人以上の子どもの
今すぐの人道支援を必要としています

ウクライナで紛争が激化してから、ユニセフは現地に留まり、ウクライナ国内10か所に活動拠点を置き、ウクライナ難民を受け入れている周辺国13か国の政府とも調整し、活動を続けてきました。戦闘激化から9カ月が過ぎた今なお収束は見えません。困難な状況が続く中、ユニセフは、ウクライナ国内および難民を受け入れている周辺各国で、避難場所や衣服、食料、医薬品の提供、教育支援や心のケアなど子どもたちや困窮する家族のための支援を継続して届けています。

自然災害緊急募金

今年8月 モンスーンの時期にあるパキスタンでは、数週間にわたり、100年来の記録を更新する降水量となり、過去30年の平均降水量の5倍以上の量の雨が南部に降り続けました。今年のモンスーンによる豪雨で、大規模な洪水や地滑りなどの被害が出ており、1,600万人の子どもを含む3,300万人が影響を受けています。さらに、パキスタンの4州のうち3州で大規模な鉄砲水や浸水が発生しており、この洪水により340万人の子どもを含む640万人が深刻な影響を受けています。



地震、津波、洪水など、災害下の子どもたちを迅速に支援するために

アフリカ栄養危機

干ばつ、紛争、食糧危機、そしてコレラ
命の危機にさらされつつある子どもたち



アフリカの角(つ)と呼ばれるアフリカ大陸東部(エチオピア、ケニア、ソマリア)では紛争、干ばつにより370万人の子どもたちが、重度の栄養不良に陥っています。安全な水が入手できないため、コレラや下痢などのリスクも高まっています。食料や水が不足していた所に、ウクライナの紛争による小麦の輸入減少が追い打ちをかけました。ソマリアでは、小麦の92%をロシアとウクライナから輸入していたのですが、現在は絶たれています。2020年当時から3倍の人が食糧不安による栄養危機に直面しています。



◀色の濃いところがアフリカの角(つ)

緊急募金にご協力をお願いします

《郵便局》(ゆうちょ銀行) 振替口座

ゆうちょ銀行のサービス改定で、現金での振り込みに硬貨手数料が新設されましたが、下記の口座については窓口の場合、硬貨手数料・振込手数料ともにかかりません。

振替口座 : 00190-5-31000 (窓口の場合 手数料免除)
口座名義 : 公益財団法人日本ユニセフ協会

振込用紙をご希望の方は、岩手県ユニセフ協会へご連絡ください。

※通信欄に「ウクライナK1030」「自然災害K1030」「アフリカ栄養危機K1030」のどれかを明記してください。(明記がない場合は一般募金になります)

TEL 019-687-4460
(月～木 / 10:00～15:00)



2022年 ユニセフ・シアター 「バレンタイン一揆」上映

7月16日(土) 岩手教育会館 多目的ホールにて開催。
コロナの感染者急増や大雨のため、来場者は予定より少ない101名。日本の女の子3人が、ガーナのカカオ農園で児童労働を知り、日本で行動を起こすというストーリー。映画鑑賞後、リモートでこの映画を制作したNPO法人ACEの杉山綾香さんによるアフタートークで質疑応答も行ない、「児童労働」「フェアトレード」について理解を深めました。



ロビーで、クラフトショップ「彩」さん出店。工芸品、お茶、お菓子、スパイスなどのフェアトレード商品の販売コーナーが好評。



参加者の感想より

- ★児童労働の人数が日本の人口くらいとは驚きました。自分と同年齢の子どもたちが毎日、低賃金で働かされている現実を知りました。(学生)
- ★私がどれだけ恵まれている環境で生活しているか気づきました。現状を知り、行動を起こした3人、ACEの方々、現地の村のように自分の意識を変えなくてはいけないと思いました。(学生)
- ★途上国の誰かの負担によって、私たちが低価格で購入していることに抵抗を感じています。どの国の子どもも、その未来は明るいものであってほしいです。(40代)
- ★ガーナのカカオ生産の状況がよく分かりました。児童の労働力を使わなくてもできる生産システムをどう構築するか、考えさせられました。(70代～)



ユニセフ講座 10月1日(土) 岩手県自治会館 「子どもの権利条約」を学ぼう!

「子どもの権利条約」をカードブックで学び、岩手県内で子どものために活動している2つの団体のお話を聞きました。

CAP岩手さん Child(子ども) Assault(暴力) Prevention(防止)の頭文字でCAP



子どもたちの人権意識を高めて、さまざまな暴力から自分を守る力を引き出す人権教育プログラム。子どもの権利を守るには、コミュニティや子どもの力を引き出す関わり方が大切。信頼できる人に出会うことで子どもの未来が変わることを学びました。

参加者の感想

子どもは大人に守られて育ちますが、子どもも大人も信頼できる人に出会い、聴いてもらうこと、相談できる相手を見つけること、居場所があることで守られるのだとCAP岩手さんやこども食堂さんのお話でわかりました。今日は、家に帰って家族と人権について話してみたいと思います。

インクルこども食堂さん



「こども食堂」は、「子どもが一人でも利用でき地域の方たちが無料か少額で食事を提供する場所」です。子どもの貧困対策のイメージが強いですが、子どもを中心としたみんなの居場所と地域づくりの活動です。子どもだけでなく、食べるだけでもないさまざまなメニュー(仕事体験・大学生との取り組み・季節行事・食材配布・電話相談)が紹介されました。

～県内の学校の活動紹介～

花巻市立花巻北中学校に、日本ユニセフ協会より「We Support UNICEF賞」が贈呈されました。

岩手県 花巻市立花巻北中学校

「ウクライナの子どもたちのために、自分たちにできることはないか」…。2022年3月に生徒会執行部の生徒から問題意識の声が上がりました。そこで、「ウクライナで自分の家を失い、避難生活をしている子どもたちのことを想像してみてください。私たちと同じ、あるいは年下の子どもたちが、いつ攻撃を受けるかと不安な毎日を送りながら、不自由な生活をしているのです。私たちにできることは少ないかもしれませんが、生徒会執行部では「ウクライナの人たちのためにできること」を、全校生徒で考えていきたいと思います。「ひとりの人間として、私たちに何ができるのか」を、各学級で真剣に話し合ってください」と、4月の生徒総会で提案しました。

生徒総会で各学級から出された意見をもとに、5月に



We Support UNICEF!

学校でも広がるユニセフ支援の輪!

We Support

unicef

UNICEF School Fundraising Initiative 2022

We Support UNICEF賞

はユニセフ募金に協力する取組をおこなうこととしました。ボランティア委員会が各学級で呼びかけたほか、吹奏楽部のコンサートでも募金活動を行いました。集まった募金は、岩手県ユニセフ協会「花巻友の会」の林正文会長と櫻田正巳さんに来校いただき、贈呈しました。

更に、7月には生徒会執行部の提案により、全校生徒で「平和への願い」を込めて千羽鶴を作ることにしました。鶴を折るにあたっては、地域の方から折り方指導をいただきながら取り組み、8月の花巻市戦没者追悼・平和祈念式において奉呈したところ。全校生徒の平和意識が高まる取り組みでした。これからも、自分たちにできることを考え、活動を続けていきたいと思っています。



盛岡市立渋民中学校

8月5日、渋民中学校芸術祭が、盛岡市渋民文化会館(姫神ホール)で開催されました。ロビーにはユニセフコーナーが設けられ、パネル展示や募金活動が行われました。



▲集まった募金は、県ユニセフ協会の岩館智子理事に贈呈